

水田農業をめぐる情勢

令和 7 年 5 月

J A 福島中央会食農振興部

『主なポイント』

【令和6年産】

1. 相対取引価格（4／末）

- (1)全 国：相対取引価格は、全銘柄平均27,102円/60kg対前年同月+11,576円(+75%)
対前月+1,126円(+5%)と一部不足銘柄を中心に再び上昇へ転じた。また年産
平均価格24,597円/60kgは比較可能なH2年以降で過去最高価格となっている。
- (2)福島県：年産平均で中通コシ26,111円/60kg（前年比175%）天のつぶ24,790円/60kg
（前年比173%）となった。

2. 主食用米集荷・契約・販売状況（4／末）売渡済み備蓄米放出分を含む

- (1)全 国：集荷2,404千玄米ト（前年比 95%）契約進捗（前年比 99%）販売進捗（前年比101%）
- (2)福島県：集荷 142千玄米ト（前年比115%）契約進捗（前年比107%）販売進捗（前年比138%）
全国的に5,000ト超の大規模集荷業者の集荷苦戦の一方、需給タイト感により販売堅調

3. 米の消費動向（米穀機構発表3月分）

一人一か月当たりの精米消費量は対前年同月比▲1.1%と全体的に微減傾向となっている。
このうち家庭内消費が+0.9%に対し中食・外食は▲5.1%と米価高を起因とする消費減や
安価な輸入米への置換え固定化が懸念される。

4. 民間流通在庫（4／末）

3/末の対前年差▲35万トから▲12万トと減少幅は縮小したものの、在庫水準としては
4/末で168万トと近年では低い水準、また生産者や小規模な集荷業者・卸売業者の在庫
状況調査(1/末現在)の結果、大規模な集荷業者への出荷が▲31万トの一方で、集荷業者
以外との取引、生産者の直接取引等が+44万トと集荷流通の変化が顕著となった。

5. 主食用米の需給動向及び価格動向（現状DI及び向こう3か月見通し・業界アンケート）

- (1)需要動向：前回調査比+1ポイントの「横ばい」
向こう3か月の見通し判断は±0ポイントの「横ばい」
- (2)米価水準：前回調査比±0ポイントの「横ばい」
向こう3か月の見通し判断は+4ポイントの「増加」

6. 政府備蓄米の買戻し条件付入札結果

回数	実施日	参加者	落札数量(t)	落札価格(円)
第1回	R7.3/10～12	7	141,796	21,217
第2回	R7.3/26～28	4	70,336	20,722
第3回	R7.4/23～25	6	100,164	20,302
計		10	312,296	

- (1) 政府備蓄米放出は合計3回目まで入札（31万ト強）が完了
- (2) 順次米穀卸経由で消費の現場に供給されているものの
- ① 広く国内消費者に行き渡るまで時間を要している。
- ② 米価上昇傾向はほぼ無くなっているものの依然として高価格水準である。等から、
3回目入札から「実需が明確を条件に玄米販売も可能」、4回目以降から「集荷業者
から消費者へ直接販売できる優先枠の設定」等、また買戻し期限も「原則1年以内から
5年以内」に大幅に要件が緩和が発表されたが、小泉新大臣体制となり、4回目入札の
中止に加え随意契約の検討など、備蓄米制度自体のゼロベースの再検討となる模様で
先行き不透明な状況

【令和7年産】

1. 福島県の制度別用途別作付け計画動向（4月末時点）

農水省発表の「令和7年産第2回中間取組状況（令和7年4月末時点）水田における作付意向について」によれば、特に飼料用米が大幅に減少（前年実績▲3.2万ha）した半面、R7年産主食用米131.7万ha（前年実績＋5.8万ha）と米価上昇を反映した構図となった。福島県でも同様に「政府備蓄米」「飼料用米」からの大幅な揺り戻しがみられ、1月末時点からさらにさらに主食用米面積の増加となった。

福島県主食用米(4/末) 62,398ha（目安比＋5,898ha・1月比＋2,659ha）

〃 飼料用米(4/末) 4,659ha（目安比▲2,341ha・1月比▲1,425ha）

〃 政府備蓄米(4/末) 2,108ha（目安比▲3,592ha・1月比▲1,246ha）

2. 輸入米の状況

- (1) S B S米はミニマムアクセス米77万トのうち主食用途として年間10万トを上限に輸入されているが、2024は早々に全量落札となった。現在、トランプ関税交渉が実施されている最中ではあるが、S B S米上限枠拡大（米国産枠拡大）の議論も水面下でなされており、国産米への影響が懸念されている。
- (2) 民間貿易による枠外輸入は、高水準の枠外関税（341円/kg）が課されているものの、国産米の高米価を背景に、S B S輸入で不落となった事業者等が枠外関税を払ってでも主食用米を輸入する動きが活発化している。既に外食向け原材料等に数万トが輸入されていると推察され、R7産新米出回り期までには相当量（10万ト程度）となるが見込まれており、今後の米価水準への悪影響（国産米需要が輸入米に置き換わり固定化）が懸念されている。

3. 政府備蓄米に関する動き（農水省発表）

- (1) 令和7年産政府備蓄米の事前契約は当面中止となった。営農計画書提出段階で備蓄米契約が行われていない場合、原則として「備蓄米」以外の用途として整理する。また令和8年産政府備蓄米買入札の都道府県別優先枠の算出にも影響しないこととなる。
- (2) 今回の政府備蓄米放出については、広く国内消費者のもとに届かない、価格低減効果が不十分などの背景から、第3回目から玄米取引可、第4回目から（集荷業者の小売への直接販売可・買戻し5年以内へ延長等）大幅な要件緩和が措置されたが、その直後、小泉新大臣体制となり、4回目入札中止に加え備蓄米運用のゼロベースでの見直し等先行き不透明な状況となっている。

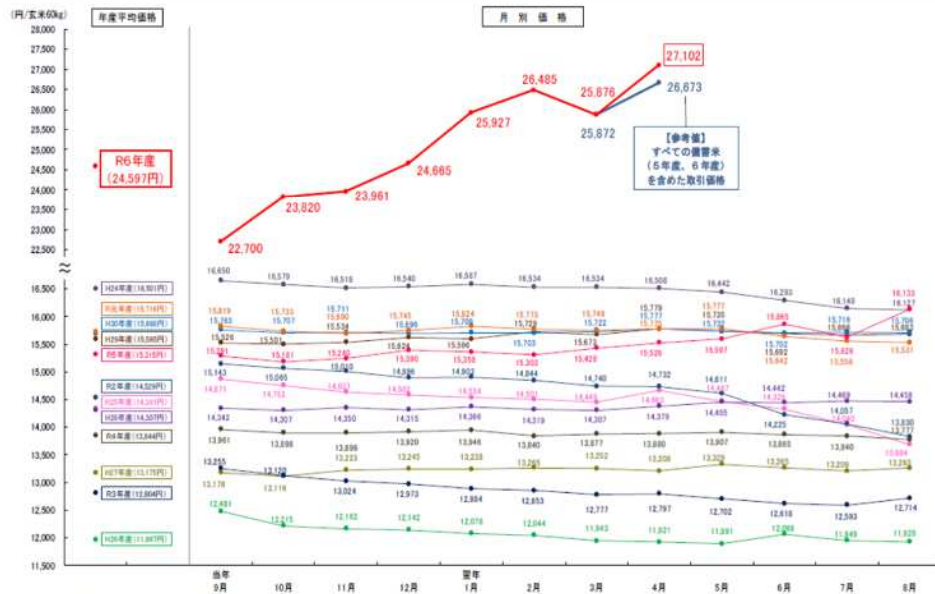
4. 令和7年産の需要に応じた生産・販売の推進に向けた見直し（農水省見解）

- (1) 従来の全国会議や県単位でのキャラバンに加え「ブロック会議」を追加開催し産地との密な意見交換を行う。
- (2) 作付意向調査（1/末・4/末・6/末）の公表は従来の矢印情報（前年実績との増減）に加え面積情報を公表し精度アップを図る。
- (3) 各産地が全国の作付動向も踏まえて需要に応じて機動的に生産量を確保できるよう加工用米・新規需要米の取組計画等の変更を可とする（6/末⇒8/20まで受付可）

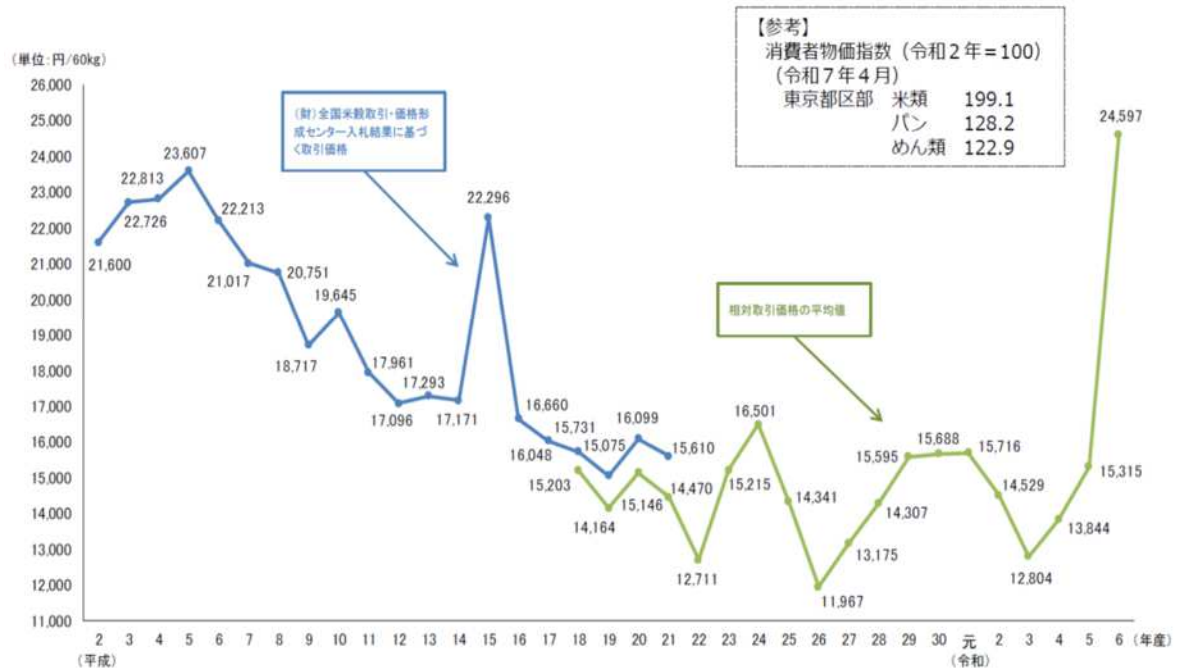
【価格動向①】

相対取引価格の推移(平成24年度～令和6年度)

- 令和6年度産米の令和7年4月の相対取引価格は、備蓄米の取引を含む全銘柄平均で27,102円/60kgとなり、対前年同月+11,576円(+75%)、対前月+1,226円(+5%)。取扱数量は、9.4万トンとなったところ。
- 9月から先月3月までの取引(契約)数量は、15.0万トン～27.4万トンであったのに対し、4月の取引(契約)数量は、9.4万トンと、前月から大きく減少(▲44%)したことに留意(次ページ参照)。
- なお、令和7年3月以降の米の取引価格の参考として、令和5年度の備蓄米も含めると、26,673円/60kg。
- 令和7年4月までの年産平均価格24,597円/60kgは、出荷業者と卸売業者等の間の取引価格としては、比較可能な平成2年以降で過去最高の価格である。



長期的な主食用米の価格の動向



【価格動向②】

令和6年産米の相対取引価格・数量(令和7年4月)(速報)

(単位:円/玄米60kg税込、玄米トン)

産地	品種銘柄	価格 6年産米 (7年4月) ①	数量 6年産米 (7年4月) ②	年産平均価格			参 考			
				6年産米 (出回り～ 7年4月) ③	5年産米 (出回り～ 6年10月) ④	対前年比 ③/④	価 格			
							6年産米 (7年3月) ⑤	対前月比 ①/⑤	5年産米 (6年4月) ⑥	対前年比 ①/⑥
北海道	ななつぼし	28,237	10,190	26,864	15,655	172%	27,684	102%	15,742	179%
北海道	ゆめぴりか	28,656	6,364	28,122	16,452	171%	29,540	97%	16,400	175%
北海道	きらら397	24,872	2,139	26,677	15,102	177%	26,577	94%	14,980	166%
青森	まっしぐら	30,602	1,464	25,899	15,220	170%	24,971	123%	15,483	198%
青森	つがるロマン	-	-	-	15,421	-	-	-	15,678	-
岩手	ひとめぼれ	23,661	1,142	23,483	15,140	155%	23,651	100%	14,841	159%
岩手	銀河のしずく	23,572	704	23,572	15,459	152%	22,575	104%	15,683	150%
岩手	あきたこまち	-	-	24,943	15,119	165%	27,954	-	15,420	-
宮城	ひとめぼれ	25,010	2,799	23,677	15,007	158%	25,687	97%	15,647	160%
宮城	つや姫	25,110	103	24,980	15,556	161%	35,455	71%	-	-
宮城	ササニシキ	-	-	24,061	15,592	154%	23,901	-	15,829	-
秋田	あきたこまち	26,937	7,953	24,921	15,317	163%	26,208	103%	15,274	176%
秋田	ひとめぼれ	23,974	2,117	22,812	14,375	159%	23,097	104%	16,230	148%
秋田	めんこいな	23,754	3,519	23,422	14,213	165%	25,226	94%	14,213	167%
山形	はえぬき	24,804	10,982	25,565	14,779	173%	25,113	99%	14,901	166%
山形	つや姫	29,322	2,140	27,753	18,745	148%	28,939	101%	18,554	158%
山形	雪若丸	26,486	1,351	26,323	15,497	170%	27,033	98%	15,408	172%
福島	コシヒカリ(中通り)	27,662	636	26,111	14,959	175%	26,556	104%	15,283	181%
福島	コシヒカリ(会津)	27,377	241	25,671	15,494	166%	28,032	98%	15,781	173%
福島	コシヒカリ(浜通り)	-	-	25,784	15,131	170%	-	-	-	-
福島	ひとめぼれ	26,433	1,466	25,249	14,537	174%	24,867	106%	14,573	181%
福島	天のつぶ	23,654	8,164	24,790	14,296	173%	24,701	96%	14,414	164%
茨城	コシヒカリ	40,883	113	27,623	15,235	181%	32,582	125%	17,135	239%
茨城	あきたこまち	-	-	26,008	14,726	177%	-	-	17,438	-
茨城	にじのきらめき	30,704	422	26,658	-	-	26,690	115%	-	-
栃木	コシヒカリ	25,994	4,562	25,010	15,152	165%	27,062	96%	14,720	177%
栃木	とちぎの星	24,152	2,561	24,794	14,476	171%	25,817	94%	14,241	170%
栃木	あさひの夢	24,046	813	24,244	14,145	171%	-	-	-	-
千葉	コシヒカリ	25,984	1,096	24,114	14,611	165%	23,629	110%	14,470	180%
千葉	ふさこがね	22,200	179	23,387	13,742	170%	23,302	95%	14,380	154%
千葉	ふさおとめ	22,945	137	23,292	13,985	167%	23,011	100%	14,211	161%
長野	コシヒカリ	32,319	139	23,040	15,895	145%	22,585	143%	-	-
長野	あきたこまち	-	-	22,225	15,127	147%	22,678	-	-	-
新潟	コシヒカリ(一般)	25,290	3,127	23,042	16,927	136%	24,969	101%	17,389	145%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	32,738	927	25,933	20,758	125%	28,912	113%	20,762	158%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	27,602	100	23,183	17,441	133%	38,965	71%	-	-
新潟	コシヒカリ(岩船)	26,216	130	22,980	17,325	133%	26,169	100%	-	-
新潟	こしいぶき	23,352	1,858	22,233	14,596	152%	23,455	100%	14,578	160%
富山	コシヒカリ	32,729	2,351	24,253	15,915	152%	24,203	135%	16,136	203%
富山	てんたかく	30,257	792	23,135	14,920	155%	23,446	129%	14,410	210%
石川	コシヒカリ	-	-	22,649	15,678	144%	24,470	-	16,144	-
石川	ゆめみつほ	-	-	21,903	14,415	152%	23,469	-	-	-
福井	コシヒカリ	23,385	223	21,336	15,380	139%	-	-	14,644	160%
福井	ハナエチゼン	-	-	21,036	13,881	152%	25,952	-	12,570	-
福井	あきさかり	-	-	21,034	14,185	148%	25,173	-	-	-

(中略)

全銘柄平均価格、合計数量	27,102	93,889	24,597	15,315	161%	25,876	105%	15,526	175%
--------------	--------	--------	--------	--------	------	--------	------	--------	------

【契約・販売動向】

令和6年産米の産地別契約・販売状況(累計、うるち米、令和7年4月末現在)(速報)

	集荷数量 ① (千玄米トン)	契約数量 ② (千玄米トン)	契約比率 ②/①	販売数量 ③ (千玄米トン)	販売比率 ③/①	参考: 前年同月比 (令和5年産の同時期との比較)		
						集荷数量	契約数量	販売数量
北海道	284.2	271.5	96%	168.8	59%	102%	111%	120%
ななつぼし	135.7	131.7	97%	79.7	59%	102%	108%	118%
ゆめぴりか	79.7	74.2	93%	47.2	59%	101%	116%	131%
きらら397	20.7	20.3	98%	10.0	48%	111%	122%	225%
青 森	120.2	112.6	94%	61.1	51%	108%	109%	102%
まっしぐら	92.0	87.6	95%	45.6	50%	112%	114%	109%
つがるロマン	0.0	0.0	100%	0.0	100%	0%	0%	1%
岩 手	106.5	100.7	95%	60.3	57%	95%	96%	131%
ひとめぼれ	78.8	73.6	93%	45.4	58%	94%	93%	140%
銀河のしずく	17.8	17.3	97%	9.6	54%	121%	126%	135%
あきたこまち	5.6	5.5	99%	3.2	57%	68%	70%	78%
宮 城	148.0	141.7	96%	66.5	45%	96%	95%	95%
ひとめぼれ	109.8	106.2	97%	44.4	40%	94%	94%	88%
つや姫	13.4	12.6	94%	6.8	51%	90%	90%	103%
ササニシキ	8.6	8.5	99%	5.6	65%	93%	95%	115%
秋 田	214.0	264.7	124%	118.4	55%	98%	112%	90%
あきたこまち	166.7	213.9	128%	98.9	59%	93%	108%	89%
ひとめぼれ	18.3	20.1	110%	6.0	33%	107%	116%	82%
めんこいな	10.9	11.9	109%	4.3	39%	167%	185%	97%
山 形	175.0	151.3	86%	82.3	47%	97%	98%	87%
はえぬき	93.2	82.8	89%	38.5	41%	98%	103%	82%
つや姫	39.6	34.9	88%	22.7	57%	96%	91%	86%
雪若丸	23.3	17.7	76%	10.0	43%	106%	105%	112%
福 島	141.9	125.8	89%	63.8	45%	115%	107%	138%
コシヒカリ(中通り)	36.1	32.8	91%	16.5	46%	93%	88%	97%
コシヒカリ(会津)	25.4	22.9	90%	8.6	34%	87%	82%	105%
コシヒカリ(浜通り)	4.0	3.5	87%	1.6	40%	80%	72%	101%
ひとめぼれ	27.3	21.4	78%	14.0	51%	124%	98%	214%
天のつぶ	34.1	31.6	93%	14.7	43%	200%	191%	177%
茨 城	58.4	58.6	100%	45.7	78%	93%	93%	116%
コシヒカリ	34.5	34.6	100%	27.3	79%	79%	79%	104%
あきたこまち	7.4	7.4	100%	6.8	92%	101%	103%	108%
にじのきらめき	9.1	9.1	100%	6.3	69%	...	...	...
栃 木	87.8	78.5	89%	42.4	48%	83%	90%	103%
コシヒカリ	61.3	55.7	91%	33.5	55%	72%	79%	101%
とちぎの星	16.3	14.4	88%	4.9	30%	131%	137%	121%
あさひの夢	4.2	3.7	89%	1.1	26%	120%	149%	130%
千 葉	55.2	56.7	103%	46.8	85%	103%	104%	106%
コシヒカリ	26.0	26.4	101%	21.7	83%	95%	92%	98%
ふさがね	13.9	14.3	103%	12.0	87%	138%	142%	145%
ふさおとめ	9.5	9.6	101%	8.9	93%	97%	106%	114%
長 野	56.9	56.5	99%	31.9	56%	91%	90%	117%
コシヒカリ	45.6	45.2	99%	23.9	52%	90%	90%	118%
あきたこまち	5.2	5.1	99%	3.9	75%	86%	85%	142%
新 潟	271.0	256.0	94%	153.7	57%	101%	97%	99%
コシヒカリ(一般)	120.2	117.5	98%	69.2	58%	89%	89%	99%
コシヒカリ(魚沼)	30.8	27.6	90%	19.7	64%	98%	94%	97%
コシヒカリ(佐渡)	12.1	11.8	98%	5.8	48%	98%	93%	84%
コシヒカリ(岩船)	10.6	10.6	100%	5.9	56%	96%	94%	85%
こしいぶき	47.9	47.2	98%	24.9	52%	134%	138%	112%
全 国 (1)	2,404	2,348	98%	1,391	58%	95%	99%	101%

【消費動向】

米の消費動向調査結果(令和7年3月分)

※地域ごとの世帯人員構成比が、令和2年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うようウェイトバック集計を実施した上で推計(注:令和4年度調査から令和2年国勢調査結果を使用)

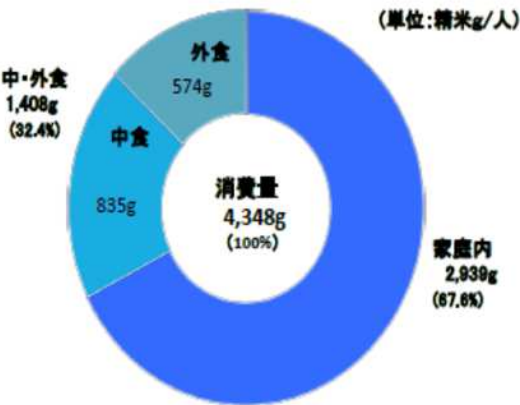
■ 1人1か月当たり精米消費量

<算出方法>

- ◆「1人1か月当たり家庭内消費量」
[(月初精米在庫量)+(1か月間購入・入手精米量)-(月末精米在庫量)]÷世帯人員
による1か月分の消費量を30日分へ補正
- ◆「1人1か月当たり中・外食消費量」
「(普通サイズのお茶碗1杯)=(精米65g)」として7日分の合計消費量から、
1か月分(30日分)の消費量を推計

		消費量		比率
n=				
1人1か月当たり	(1384)	4,348	100.0%	
家庭内	(1384)	2,939	67.6%	
中・外食	(1384)	1,408	32.4%	(100.0%)
中食	(1384)	835	19.2%	(59.3%)
外食	(1384)	574	13.2%	(40.8%)

(注) 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。



消費量は微減傾向
(特に中・外食)

【参考】 1人1か月当たり精米消費量の推移

	1 か月当たり消費量			家庭内消費量			中・外食消費量		
	消費量	シェア	対前年 増減比	消費量	シェア	対前年 増減比	消費量	シェア	対前年 増減比
令和7年3月	4,348	100.0	▲ 1.1	2,939	67.6	0.9	1,408	32.4	▲ 5.1
令和7年2月	4,696	100.0	1.3	3,179	67.7	3.4	1,517	32.3	▲ 3.0
令和7年1月	4,714	100.0	3.9	3,279	69.6	8.4	1,434	30.4	▲ 5.2
令和6年12月	4,790	100.0	6.8	3,259	68.0	13.3	1,531	32.0	▲ 4.8
令和6年11月	5,051	100.0	2.2	3,448	68.3	3.0	1,603	31.7	0.6
令和6年10月	4,849	100.0	0.5	3,198	66.0	▲ 2.0	1,651	34.0	5.7
令和6年9月	4,504	100.0	0.6	3,008	66.8	0.0	1,496	33.2	1.9
令和6年8月	4,505	100.0	3.6	2,952	65.5	3.4	1,553	34.5	4.0
令和6年7月	4,521	100.0	0.4	3,030	67.0	0.4	1,490	33.0	0.2
令和6年6月	4,804	100.0	2.5	3,248	67.6	2.3	1,556	32.4	2.8
令和6年5月	4,785	100.0	1.6	3,285	68.7	4.3	1,501	31.4	▲ 3.9
令和6年4月	5,091	100.0	2.6	3,437	67.5	2.3	1,654	32.5	3.1
令和6年度	4,722	100.0	2.1	3,189	67.5	3.3	1,533	32.5	▲ 0.3
令和5年度	4,626	100.0	0.0	3,088	66.8	▲ 2.7	1,538	33.2	6.1
令和4年度	4,625	100.0	2.1	3,175	68.6	1.1	1,449	31.3	4.4
令和3年度	4,529	100.0	▲ 4.2	3,140	69.3	▲ 4.1	1,388	30.6	▲ 4.7
令和2年度	4,730	100.0	2.2	3,274	69.2	5.1	1,456	30.8	▲ 3.7
令和元年度	4,626	100.0	4.5	3,114	67.3	0.5	1,512	32.7	14.0

(注)1. 令和元~令和6年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。

2. 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

3. 前年度と今年度の推移を参考として4ページに掲載している。

【民間流通在庫①】

令和 7 年 4 月末民間在庫量のポイント

- 毎月公表している民間在庫量は、①500トン以上の集荷業者、②4,000トン以上の卸売業者が対象。およそ民間の流通在庫全体の75%をカバー(別紙参照)。
- 令和 7 年 4 月末の民間在庫量は、前月に引き続き、3 月末の対前年差▲35万トンから▲12万トンと減少幅は縮小したもの、4 月末在庫としては近年では最も低い水準の168万トン(うち売り渡した政府備蓄米の数量は16.4万トン)。
- これについては、令和 6 年産の生産量(12月10日公表)が679万トンと前年産より18万トン多い中で、出荷段階で対前年差▲14万トン、販売段階で同+2万トンとなっていることを踏まえれば、報告対象となっている集荷業者の集荷が前年に比べ減少していることが主な要因と考えられる。

※ 在庫率は上記対象事業者の在庫量を全体の需要で割ったもの。



※22年以前は、政府備蓄米の運営を同転借方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。
※令和 7 年は、売り渡した政府備蓄米の数量(16.4万トン)を含む。

○ 出荷・販売段階別の民間在庫量

	6年4月末	7年4月末
出荷段階	139	126
対前年差	▲36	▲14
販売段階	41	43
対前年差	▲3	+2
合 計	180	168
対前年差	▲39	▲12

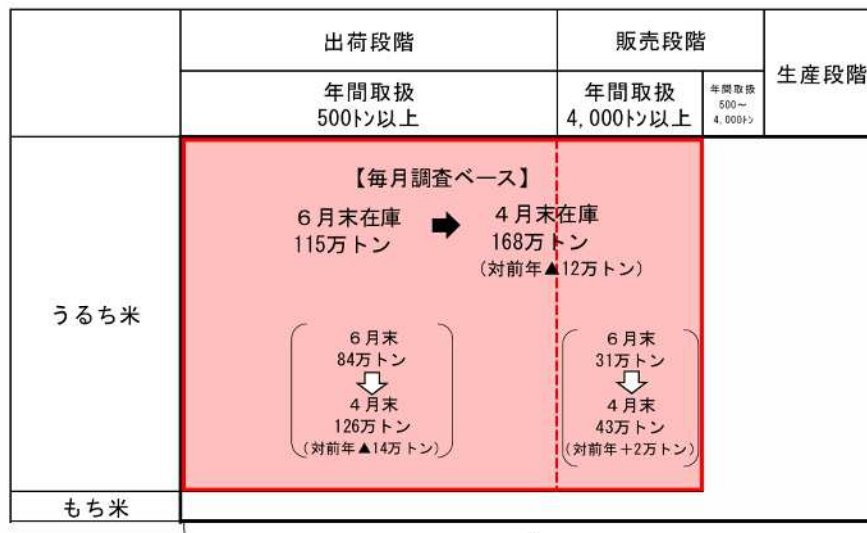
※出荷段階は玄米仕入数量が5,000トン以上の卸売業者等
※販売段階は玄米仕入数量が4,000トン以上の卸売業者等
※7年4月末には、売り渡した政府備蓄米の数量(出荷段階は14.5万トン、販売段階は1.9万トン)を含む。

○ 集荷業者の集荷数量

	集荷数量	前年比
7年4月末	240.4	95%
6年4月末	253.6	95%
対前年差	▲13.2	-

※集荷数量は販売数量が5,000トン以上の集荷業者等
※7年4月末には、売り渡した政府備蓄米の販売数量等の報告結果(4月分までの確報)の数量13.9万トンを含む。

(参考) 毎月公表している民間在庫量の調査対象の範囲



※令和 7 年は、売り渡した政府備蓄米の数量(16.4万トン)を含む。

【米の基本指針ベース】
153万トン
(※ 6 月末のみ調査)

【民間流通在庫②】

米穀の生産者・小規模事業者の在庫数量等に関する調査について

【調査の概要】

食糧法に基づき、毎月調査している大規模な集荷業者・卸売業者に加え、以下の（１）～（３）の生産者や小規模な集荷業者・卸売業者等の在庫数量等の調査を実施。

（１）生産者に対する調査

（641者からの聞き取り調査）

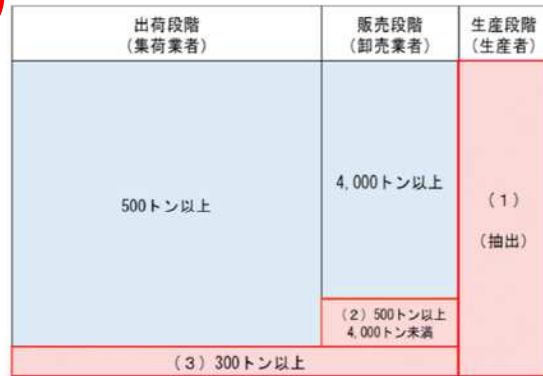
（２）500トン以上4,000トン未満の卸売業者に対する調査

（6月末在庫調査（報告徴収）の対象者：382事業者の悉皆調査）

（３）300トン以上の集荷業者・卸売業者等に対する調査

（届出事業者のうち、643事業者の悉皆調査）

（調査対象範囲のイメージ）



毎月の在庫調査の対象

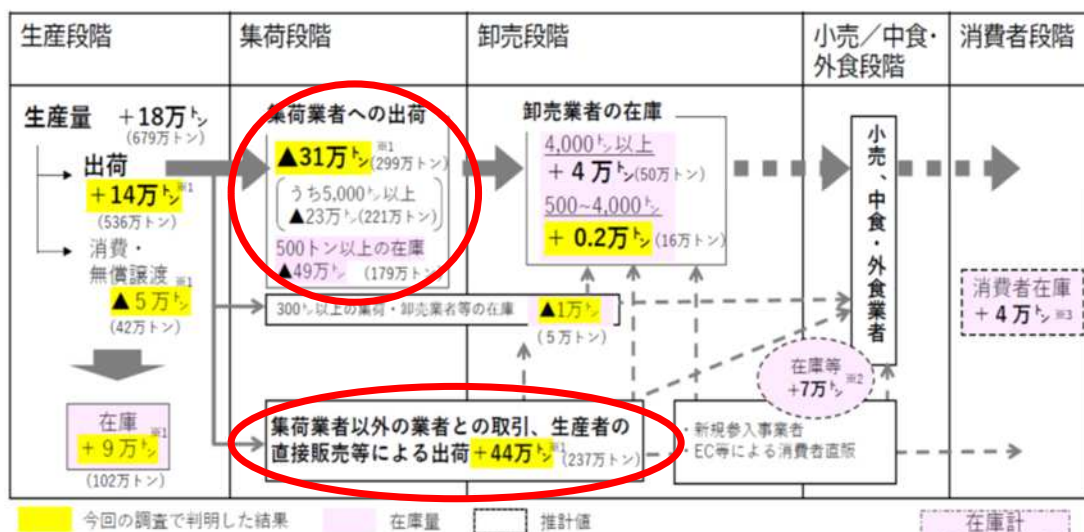
生産者・小規模事業者への追加調査の対象

（生産者に対する調査客体の作付規模）

作付規模	客対数
1.0ha未満	116
1.0～5.0	143
5.0～10.0	76
10.0ha以上	306
合計	641

今回の調査の考察（令和6年産の流通の状況：対前年差）

- 生産量が18万トン増加する中で、生産者の出荷は、前年産と比べ、14万トン増加。あわせて、生産者の在庫量は、9万トン増加（7年1月末現在）。
- 生産者の出荷数量のうち、JA系統などの集荷業者への出荷数量は前年産に比べ31万トン減少する一方で、集荷業者以外の業者との取引、生産者の直接販売等は44万トンの増加。この一部は、卸売業者等の在庫として存在（3万トン）するほか、末端の流通にも一部存在する可能性（7万トン）。



※1 生産者在庫調査の結果から、2020年農林業センサスの作付規模の階層別作付面積のシェアを用いて、生産者全体の在庫量を推計。

※2 出荷量（+14万^{※1}）から、集荷・卸売業者等の在庫量（+3万^{※1}）及び消費者の在庫量（+4万^{※1}）の差し引きにより算出。

※3 米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査」における家庭内の月末在庫数量を基に算出した1人当たり在庫量に、令和6年10月人口を乗じて算出。

【民間流通在庫③】

民間在庫の推移(速報)

1 全国段階の民間在庫の推移(うるち米)

(1) 出荷+販売段階

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
30年産米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126
1年古米(29年産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23
元年産米	0	10	115	255	283	294	276	250	221	193	169	146
1年古米(30年産)	95	66	43	34	25	16	12	9	7	5	4	3
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19
2年産米	0	12	124	266	297	304	291	269	245	214	185	162
1年古米(元年産)	112	84	61	51	40	31	23	17	13	11	9	7
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1
3年産米	0	11	129	253	285	293	278	258	236	208	179	149
1年古米(2年産)	129	99	77	68	57	47	39	33	28	23	19	17
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18
4年産米	1	12	112	236	263	273	259	240	217	191	163	134
1年古米(3年産)	124	94	71	59	49	40	33	26	21	17	14	11
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38
5年産米	1	14	131	232	254	260	245	221	195	165	133	105
1年古米(4年産)	106	78	56	46	36	27	21	15	13	10	7	5
6/7年	82	65	149	244	259	253	230	205	180	168		
対前年差	▲40	▲39	▲50	▲45	▲44	▲45	▲45	▲39	▲35	▲12		
6年産米	1	13	112	214	234	235	216	193	170	155		
1年古米(5年産)	74	47	31	23	18	11	7	5	4	9		

(参考) 売り渡した政府備蓄米の民間在庫

(単位: 万玄米トン)

	7年 3月	4月	5月	6月
出荷+販売段階	0.2	16.4		
6年産米	0.1	11.1		
5年産米	0.1	5.2		
出荷段階	0.0	14.5		
6年産米	0.0	9.8		
5年産米	0.0	4.6		
販売段階	0.2	1.9		
6年産米	0.1	1.3		
5年産米	0.1	0.6		

福島	出荷+販売段階	58.9	40.9	54.1	162.0	168.8	169.7	159.3	133.3	118.8	125.2		
	6年産米		0.0	26.4	141.3	154.8	162.0	155.1	130.7	116.9	116.2		
	1年古米(5年産)	56.7	39.4	27.0	20.3	13.7	7.4	3.9	2.5	1.8	8.9		
	出荷段階	41.5	25.4	40.2	128.1	130.2	131.5	124.2	101.4	85.8	91.9		
	6年産米			23.0	118.9	124.5	129.0	122.8	100.7	85.4	84.6		
	1年古米(5年産)	40.7	25.0	17.2	9.3	5.7	2.5	1.3	0.7	0.4	7.3		
	販売段階	17.5	15.5	13.9	33.8	38.6	38.2	35.1	31.9	33.0	33.3		
	6年産米		0.0	3.4	22.4	30.3	33.0	32.2	30.0	31.5	31.5		
	1年古米(5年産)	16.0	14.4	9.8	11.0	8.0	4.9	2.6	1.8	1.4	1.6		

【需給動向・米価水準】

米取引関係者の判断(令和7年4月)

1. 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

①主食用米の需給動向

(ア)現状判断DI

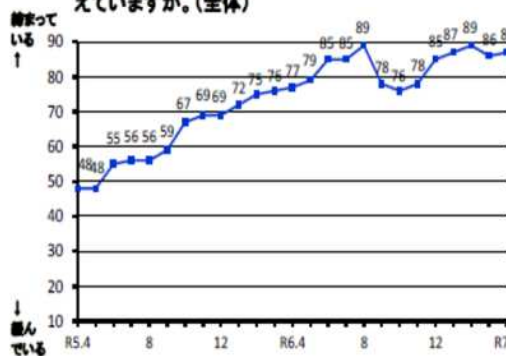
前月からの増減 +1 (今月の数値 87)

(イ)見通し判断DI(向こう3ヶ月)

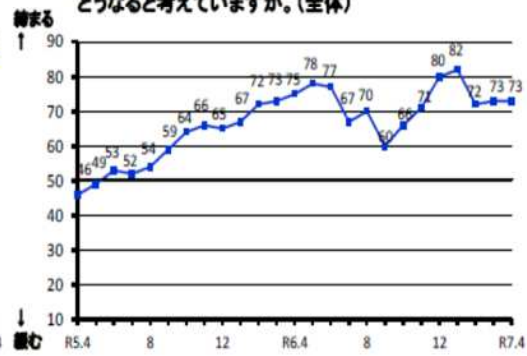
前月からの増減 ±0 (今月の数値 73)

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

①-ア 国内の主食用米の“現在の需給動向”について、どう考えていますか。(全体)



①-イ 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の需給動向”について、どうなると考えていますか。(全体)



②主食用米の米価水準

(ア)現状判断DI

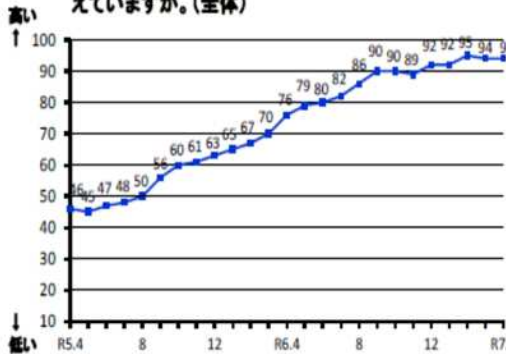
前月からの増減 ±0 (今月の数値 94)

(イ)見通し判断DI(向こう3ヶ月)

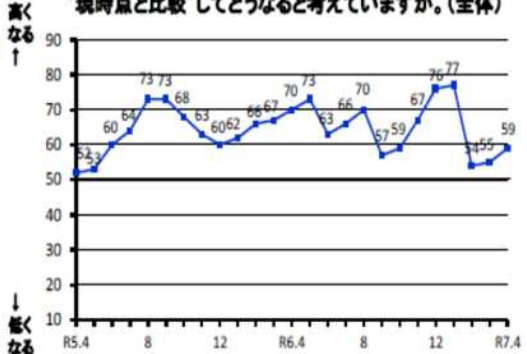
前月からの増減 +4 (今月の数値 59)

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

②-ア 国内の主食用米の“現在の米価水準”について、どう考えていますか。(全体)



②-イ 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。(全体)



【政府備蓄米関連】

政府備蓄米の買戻し条件付売渡しについて（入札・流通実績）

6年産の生産量は前年度より多い一方で、集荷の大宗を担う集荷業者に米が集まっていなかったことから、全体として供給に不足が生じているものではないものの、通常の供給ルートではない流通が増えたことで円滑な流通に支障が生じている状態です。
このような状況を踏まえ、集荷業者を対象に、流通の目詰まりを解消し、流通の円滑化を図るため、政府備蓄米の買戻し条件付売渡しを行うこととしました。

1 政府備蓄米の買戻し条件付売渡しの入札結果

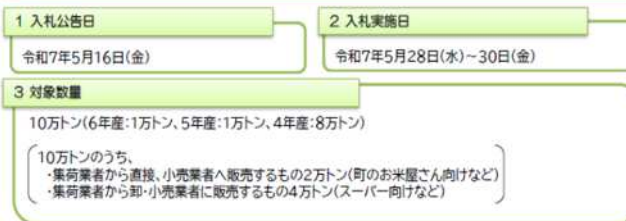
・一定期間後に買戻すことを条件として、現在まで3回の入札を実施し、約31万トンが落札されています。

回数	実施日	参加者	落札数量	落札価格 (※1)
第1回	令和7年3月10日(月)～12日(水)	7事業者	141,796トン	21,217円(税抜き) 22,914円(税込み)
第2回	令和7年3月26日(水)～28日(金)	4事業者	70,336トン	20,722円(税抜き) 22,380円(税込み)
第3回	令和7年4月23日(水)～25日(金)	6事業者	100,164トン	20,302円(税抜き) 21,926円(税込み)
計		10事業者 (※2)	312,296トン	20,812円(税抜き) 22,477円(税込み)

※1：落札された販売区分の加重平均価格であり、各落札区分の5kg60kgキログラム当たりの金額
※2：第1回から第3回の合計（ただし、重複を除く）

2 政府備蓄米の買戻し条件付売渡しの入札（第4回）スケジュール

・政府備蓄米の買戻し条件付売渡しに係る第4回入札を以下のとおり実施します。
・以降、本年夏の備蓄期まで切れ目なく政府備蓄米が供給されるよう、7月まで毎月入札を実施する予定です。



政府備蓄米は、これまで3回の入札で、合計31万トンを供給。5月以降も夏まで毎月入札を実施予定です。
しかしながら、売渡した政府備蓄米の流通が一部にとどまっていることもあり、スーパー店頭での米の平均価格は依然として高止まりしている状況です。
このため、スーパー等において、備蓄米を原料とした米が広く店頭と並ぶことにより、備蓄米放出の効果を多くの消費者が実感できるようにしつつ、米の供給の強化により、米の流通の安定化を図るため、以下の運用改善を行います。

その後、農林水産大臣交替により、4回目入札の中止並びに随意契約の導入、備蓄米制度のゼロベースでの検討について示された。

1. 政府流通米の流通の円滑化

(1) 小売店主導の早期販売計画に基づく入札の優先枠の設定。【新規】

(10万トンのうち、
・集荷業者から直接、小売業者へ販売するもの2万トン(町のお米屋さん向けなど)
・集荷業者から卸・小売業者に販売するもの4万トン(スーパー向けなど)

(2) 地方・中小の小売店への供給のため、卸売販売の解禁(第3回入札から実施済み)

(3) 政府備蓄米の市場への供給の早急な拡大を関係者に文書で要請(4月30日)。政府備蓄米の大部分を買い入れた全農に対し、卸売業者等と連携し販売計画の前倒しを対面で強く要請(5月と口頭)。

2. 政府備蓄米も含めた供給の強化

(1) 5月以降、毎月(5、6、7月)実施する入札数量を10万トンと決定。

ただし、7月の入札数量については需給環境に大きな変化があれば変更。【新規】

(2) 買戻し条件付売渡しに係る買戻しについては、これまで売り渡した備蓄米も含め、期限を原則1年以内から原則5年以内に延長。【新規】

(3) 7年度の主食用米の各産地の増産の状況をタイムリーに発信。(4月末現在、6月末の状況をとりまとめ、それぞれ翌月中に公表)

(4) 7年度産の備蓄米については、需給環境が大きく変化しなければ、その買入を当面中止するとともに、買戻しは行わない。【新規】

(5) 備蓄水準低下への懸念に対し、非常時には、食料供給困難事態基本方針の考え方の下、政府備蓄米で対応してもなお国民が最低限度必要とする食料の供給が確保されない場合には、国が保有するミニマム・アクセス米を活用。

3. 消費者への丁寧な情報発信

引き続き毎週のスーパー店頭価格(POSデータ)を公表するとともに、政府備蓄米が原料として使われているものも含むブレンド米のシェアや平均価格、店頭価格の事例を併せて公表する。
また、備蓄米の売渡しの販売数量等の報告に併せて、集荷業者や卸売業者の各段階の経費・利益等を公表するなど情報発信を充実。【新規】

【R 7 産作付動向（全国 4 月末）】

水田における作付意向について（令和7年産第2回中間的取組状況(令和7年4月末時点)）①

- 農林水産省では、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。
- 全国的に主食用米の作付けが増加（131.7万ha）。7年産米の備蓄米買入入札を当面中止していることから、備蓄米（1.7万ha）も合わせて133.4万ha。平年単収（539kg/10a）で生産量を計算すると719万トン（対前年40万トン増）に相当。
- 本調査結果等も踏まえ、6月30日までに、生産者から地域農業再生協議会に営農計画書等が提出されることから、作付意向については、今後も変動することが見込まれる。

【令和7年産水田における作付意向（都道府県、地域農業再生協議会等への聞き取り結果 令和7年4月末時点）】（万ha）

	主食用米	備蓄米	戦略作物						
			加工用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲麦解糖 飼料用稲)	麦	大豆
R7年産	131.7	1.7	4.4	1.1	0.5	6.7	5.3	9.7	7.8
前年産 (R6年産実績)	125.9	3.0	5.0	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4
前年対差	5.8	▲1.3	▲0.6	0.0	▲0.1	▲3.2	▲0.3	▲0.6	▲0.6

【参考】前年産実績（R6年産）との比較

下段〔 〕は令和7年1月末時点の作付意向

前年より 増加傾向	34県 〔19県〕	2県 〔4県〕	11県 〔8県〕	10県 〔8県〕	8県 〔8県〕	0県 〔0県〕	5県 〔7県〕	14県 〔11県〕	4県 〔9県〕
前年並み	11県 〔24県〕	6県 〔11県〕	4県 〔12県〕	5県 〔17県〕	5県 〔24県〕	3県 〔11県〕	4県 〔26県〕	7県 〔21県〕	4県 〔9県〕
前年より 減少傾向	2県 〔4県〕	20県 〔13県〕	29県 〔24県〕	23県 〔13県〕	33県 〔14県〕	43県 〔35県〕	37県 〔13県〕	24県 〔13県〕	37県 〔27県〕

- 注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の7年産実績は、地方農政局等が4月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
- 注2：比較している主食用米の6年産実績は、令和7年2月統計部公表の主食用米作付面積。
- 注3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の6年産実績は、取組計画認定面積。
- 注4：麦・大豆の6年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
- 注5：備蓄米の6年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和7年産第2回中間的取組状況(令和7年4月末時点)）②

都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物													
						新規需要米												麦	
						加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲麦解糖飼料用稲)					
	6年産 実績	7年産 意向	対前年 実績	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向
全国計	125.9万	131.7万	▲	3.0	1.7	50.2	44.4	11.2	10.5	6.3	4.7	98.7	67.2	56.5	53.4	103.1	97.4	84.4	78.4
北海道	83.7	88.2	▲	1.8	1.4	6.8	7.8	2.5	2.8	0.2	0.1	5.3	2.8	2.5	3.0	31.8	29.9	16.5	14.3
青森	37.2	42.1	▲	4.0	1.0	0.7	0.2	0.5	0.4	0.0	0.0	5.4	4.5	0.9	0.8	0.5	0.5	4.8	4.4
岩手	43.1	45.6	▲	0.6	0.6	1.3	0.8	0.4	0.4	0.0	0.0	4.8	3.5	2.5	2.2	3.3	4.1	3.8	3.8
宮城	58.4	61.9	▲	2.2	2.0	0.9	0.9	1.2	1.1	0.1	0.1	7.2	4.7	3.0	2.6	2.2	2.3	9.4	8.9
秋田	72.2	76.0	▲	2.7	2.7	8.4	5.8	0.5	0.5	0.3	0.2	2.5	1.6	1.4	1.2	0.1	0.1	8.5	8.0
山形	52.4	53.9	▲	3.4	3.0	4.3	4.5	0.5	0.5	0.1	0.0	4.7	3.4	1.4	1.3	0.1	0.1	4.5	4.2
福島	56.5	62.4	▲	5.6	2.1	0.4	0.5	0.2	0.1	0.0	0.0	7.0	4.7	1.1	1.0	0.4	0.4	0.9	0.9
茨城	59.9	64.7	▲	0.1	—	1.3	1.0	1.1	0.9	0.1	0.1	10.3	6.1	0.6	0.6	3.9	3.6	0.7	0.6
栃木	49.0	55.7	▲	1.1	—	1.9	2.5	0.1	0.0	0.9	0.3	11.6	6.3	2.3	1.9	7.5	6.7	0.4	0.3
群馬	12.8	13.8	▲	—	—	1.4	0.7	0.0	0.0	0.2	0.2	1.0	0.7	0.6	0.6	2.2	1.8	0.1	0.1
埼玉	28.4	29.0	▲	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.9	0.9	2.1	1.5	0.1	0.1	2.2	2.3	0.4	0.4
千葉	48.3	50.6	▲	0.1	0.1	2.1	1.7	0.0	0.1	0.1	0.1	6.6	4.8	1.3	1.2	0.5	0.5	0.2	0.2
東京	0.1	0.1	→	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川	2.8	2.8	→	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新潟	101.4	107.7	▲	4.7	1.5	6.8	5.7	1.8	1.6	1.4	0.8	2.9	1.7	0.7	0.6	0.2	0.2	3.9	3.4
富山	31.2	32.1	▲	1.8	1.3	1.1	1.3	0.4	0.4	0.3	0.3	1.9	1.7	0.5	0.5	3.3	3.0	3.7	3.7
石川	21.2	21.6	▲	0.2	0.1	0.5	0.6	0.1	0.1	0.2	0.3	0.5	0.2	0.1	0.1	1.2	1.1	1.0	0.9
福井	21.9	22.5	▲	0.7	0.7	0.5	0.5	0.3	0.3	0.1	0.1	1.5	0.9	0.2	0.2	5.2	5.0	0.1	0.1
山梨	4.6	4.6	→	—	—	0.1	0.1	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
長野	29.0	29.6	▲	0.2	0.1	0.8	0.6	0.3	0.2	0.0	0.0	0.3	0.2	0.3	0.3	2.5	2.4	0.6	0.6
岐阜	19.6	20.0	▲	0.1	0.1	1.1	1.1	0.1	0.1	0.1	0.1	2.8	2.4	0.3	0.3	3.7	3.7	0.3	0.2
静岡	14.4	14.7	▲	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5	0.3	0.3	0.3	0.2	0.0	0.0
愛知	25.0	25.3	▲	0.1	0.1	0.6	0.6	0.0	0.0	0.3	0.3	1.3	1.1	0.2	0.2	5.7	5.7	0.1	0.1
三重	24.5	24.7	▲	—	—	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	2.0	1.7	0.3	0.3	7.1	6.9	0.2	0.2

- 注1：主食用米の6年産実績は、令和7年2月統計部公表の主食用米作付面積。
- 注2：主食用米、戦略作物及び備蓄米の7年産意向は、地方農政局等が4月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
- 注3：主食用米の対前年実績は、6年産実績と比較し、「↑」：増加傾向（1%超増加）、「→」：前年並み（増減1%以内）、「↓」：減少傾向（1%超減少）で分類。
- 注4：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産実績は、取組計画認定面積。
- 注5：麦・大豆の6年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
- 注6：備蓄米の6年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。
- 注7：戦略作物及び備蓄米の取組は、6年産実績と比較し、「↑」：増加傾向（1%超増加）、「→」：前年並み（増減1%以内）、「↓」：減少傾向（1%超減少）で分類。

（中略）

【R 7 産作付動向（福島県4月末速報）】

【福島県の令和 7 年産制度別・用途別作付計画の動向】

令和7年4月末時点（速報値）

<制度別・用途別作付計画の動向>

（単位：ha）

年 産 項 目		6年産 実績 ①	7年産			比較		
			計画（目安） ②	1月末現在 ③	4月末現在 ④	前年実績比 ④－①	計画比 ④－②	1月比 ④－③
主食用作付面積		56,500	56,500	59,739	62,398	5,898	5,898	2,659
非 主 食 用 米 等	SUM(①:⑥)	14,281	14,700	11,176	8,420	▲ 5,861	▲ 6,280	▲ 2,756
	①飼料用米	6,967	7,000	6,084	4,659	▲ 2,308	▲ 2,341	▲ 1,425
	②備蓄米	5,558	5,700	3,354	2,108	▲ 3,450	▲ 3,592	▲ 1,246
	③加工用米	429	600	443	525	96	▲ 75	82
	④WCS	1,098	1,100	1,071	951	▲ 147	▲ 149	▲ 120
	⑤輸出米等	178	250	175	128	▲ 50	▲ 122	▲ 47
	⑥米粉用米他	51	50	49	49	▲ 2	▲ 1	0
全水稻作付面積		70,800	71,200	70,883	70,818	18	▲ 382	▲ 65